



小郡市立大原中学校だより

大為小積



令和4年 弥生1日
第26号
校長 矢野 晴一

学校教育目標：「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」※「考動」

「来年度に向けて・・・！」 学校運営協議会評価を受けて



2月15日（火）、本年度の教育活動を振り返り、来年度の教育活動を充実させていくことを目的として、学校運営協議会のみなさまからご意見をいただきました。

小郡市内の小・中学校では、「小郡市教育施策実施計画」にもとづき、【①未来に向かう心の育成 ②生きて働く知の育成 ③健康で逞しい体の育成 ④地域とともにある学校づくり

⑤ICT活用力の育成 ⑥個に応じた学びの充実 ⑦教職員の資質向上の推進 ⑧小中9年間を見通した指導体制の充実 ⑨働き方改革の推進 ⑩人権・同和教育の啓発推進】という大項目において自己評価を行います。GIGA スクール構想等、時代や社会状況の変化にともない、本年度は、昨年までとは項目が変わっています。

会でいただいたご意見と来年度に向けての方策について、みなさまにお知らせします。

まだ続く
我慢の日々を
道を探して
みんなであら
ふりかえり
晴一

1 未来に向かう「心」の育成について 自己評価 3.39（四段階自己評定尺度平均値）

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|--|-----------------------------------|
| ○生徒たちが落ち着いていて、未来に向かう姿が見てとれる。先生方の努力に敬意を表する。 | ○全員で、差別やいじめを許さない仲間づくり、集団づくりに努めます。 |

2 生きて働く「知」の育成について 自己評価 3.10

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|---|-----------------------------------|
| ○子どもたちのために習熟や基本の徹底等、日々取り組んでおられて、すばらしいと思う。 | ○授業アンケートをもとにした授業改善や授業研究の取組を継続します。 |

3 健康で逞しい「体」の育成について 自己評価 3.00

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ○体力向上は、日々の努力の積み重ねが大切であり、取組の継続を願う。 | ○陸上・駅伝並びに合唱等に全校をあげて取り組みます。 |
| ○「食育」は、家庭との連携が大切であると思う。 | ○基本的な生活習慣の確立に努めます。 |

4 地域とともにある学校づくりについて 自己評価 2.85

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|------------------------------------|---------------------------------|
| ○来年こそ「ラブアース・クリーンアップ大原」が実施できることを願う。 | ○地域と連携しながら、できることをみいだし取り組んでいきます。 |

5 ICT活用力の育成について 自己評価 3.14

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|------------------------|-----------------------|
| ○モラル教育も並行して充実させる必要がある。 | ○目的・場を明らかにした活用を推進します。 |
| ○専門的な人材の各学校への配置を願う。 | ○情報モラル教育の充実に努めます。 |

6 個に応じた学びの充実について 自己評価 3.23

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|----------------------------|-----------------------------|
| ○先生方の細やかな努力があつてのものと感謝している。 | ○具体的な支援についての組織的な取組の推進に努めます。 |

7 教職員の資質向上の推進について 自己評価 3.35

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|--|-------------------------------|
| ○組織的に取り組んである校内研修をはじめ、先生方が努力されていることをあらためて感じた。 | ○引き続き授業研究をはじめとする校内研修の充実に努めます。 |

8 小中9年間を見通した指導体制の充実について 自己評価 3.12

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|----------------------------------|------------------------------------|
| ○小中連携リーフレットの周知等、体制に工夫がなされていると思う。 | ○来年度も、「元気宣言」や「小中連携リーフレット」の周知に努めます。 |

9 働き方改革の推進について 自己評価 3.06

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|--------------------------------------|--|
| ○中学校の教師は、いそがしすぎる。少しでも働き方が改善されることを願う。 | ○「見通し」「段取り」「声のかけ合い」に努めていながら具体的な工夫につなげます。 |

10 人権・同和教育の啓発推進について 自己評価 3.52

| 評価結果（成果や課題） | 来年度に向けて |
|--------------------------------------|---|
| ○差別のない集団、いじめのない集団、そして、個が形成されていると感じる。 | ○来年度も、学校・家庭・地域がつながりを深めながら、差別のない社会をつくっていくための努力を継続していきます。 |

「強い決意・・・！」 自分たちの卒業式をつくるために



2月22日（火）、前日から再開した音楽の授業に引き続き、3年生の卒業に向けた合唱の取組を再開しました。これまで完全に止まっていた合唱活動。その間、昼休みに音楽室をのぞくと、再開を信じて黙々と指揮やピアノの練習をしている子どもたちの姿がありました。

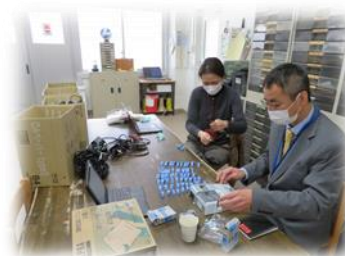
当日、昼休みには、「**どうやったら安全に実施できるか**」についてリーダーたちが集まって入念な打合せが行われました。そして、時間になると、先生方も総出で見守る中、体育館、音楽室、ベランダ、廊下と、間隔をあけるために学校中のいたるところを活用することで、校内に久しぶりに歌声が戻ってきました。「**河口**」の歌声がきこえてきた瞬間、胸が熱くなりました。

卒業式まであとわずか。**子どもたちの願いと決意に応えるため**、最大限の、そして細心の注意をはらってまいりたいと思います。なにとぞご理解のほどお願いいたします。

「見えないところで・・・！」 ICT支援員さんの支え

ICT教育が進められていく中で、学校の教育活動において効果的にタブレットを活用できるように、また、困ったときやわからないときに対応していただけるように、専門的な技能を有してある**ICT支援員さん**に定期的に来校していただいています。

具体的には、技能の面や活用の仕方について相談にのってもらったり、お手伝いしてもらったりしながら、私たちの教育活動を**見えないところで支えていただいています**。ありがとうございます。



小さいけれど大きな感動 その26 「さりげない心遣いに感謝・・・！」

職員室前の廊下には、大きな棚が置いてあります。子どもたちは、その棚にワークブックやファイル等を提出しています。

たくさんの提出物が棚の上に並んでいたある日、午前中に雪がちらつきはじめました。ふと見ると、朝、棚の上にあったたくさんの提出物がありません。気づかれた先生が、子どもたちががんばって提出した**「学びのたからもの」**であるノートやワークがぬれないように、職員室内に移動してくださっていたのです。それを見たとき、なんだか心が温かくなりました。「**さりげない心遣い**」に感謝の気持ちをいだとともに、「**気づきを行動に**」うつすことの大切さを学びました。

